

## 令和6年度 学校運営連絡協議会 実施報告書

### 1 組織

- (1) 都立府中東高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 経営企画室長1名、副校長1名 計2名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、教務総務主任、生活指導主任、進路指導主任、保健主任、各学年主任 計10名
- (4) 協議委員の構成  
学識経験者1名、近隣中学校長1名、近隣都立学校長1名、青少年対策委員1名、地域代表1名、PTA代表1名、同窓会長1名 PTAのOB会長1名 計8名

### 2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会  
第1回 令和6年6月21日（金） 内部委員10名 協議委員8名  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員選出、昨年度学校経営報告と今年度学校経営計画、各分掌・学年からの目標と現状報告、意見交換  
第2回 令和6年11月15日（金） 内部委員10名 協議委員8名  
授業公開、これまでの教育活動の報告、学校評価アンケートの内容検討、意見交換  
第3回 令和7年2月14日（金） 内部委員10名 協議委員8名  
学校の現状報告と今年度のまとめ、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、意見交換
- (2) 評価委員会  
第1回 令和6年11月15日（金） 内部委員2名 協議委員1名  
学校評価の基本方針確認、今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討  
第2回 令和7年2月14日（金） 内部委員2名 協議委員1名  
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告書）

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・回収数・規模  
12月 全校生徒 対象：929人 回収：748人 回収率：81%  
12月 保護者全員 対象：929人 回収：416人 回収率：45%  
12月 教職員 対象：63人 回収：63人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目  
学校運営、教科指導、生活指導、進路指導、健康安全、部活動及び学校行事、ライフ・ワーク・バランスの推進
- (4) 評価結果の概要  
同じ項目では、生徒、保護者、教職員の数値を比較している。  
学校満足度は、生徒、保護者共に高い数値を示している。
- (5) 評価結果の分析・考察
  - ①学校生活満足度  
・学校生活の充実度について、昨年に引き続き、生徒、保護者、教員ともに約9割が肯定的な回答を寄せており、学校生活の満足度が高いことが明確に読み取れる。
  - ②学習指導  
・授業方法の工夫については、すべての教員が工夫していると肯定的な回答をしている。一方、生徒の2割程度が否定的な回答を寄せている点が課題として浮き彫りになる。この両者の数値が、高いレベルで合致していくことが、今後、本校に最も求められる方向性である。
  - ③一人1台端末  
・今回、新たに設定した項目である。生徒は、7割余り、教員は8割弱の肯定的な回答が示されていないものの、否定的な回答が両者とも3割弱存在していることは看過できない。一人が1台ずつ端末を持つことの意義を再確認し、最大の効果を引き出すことができるよう、学校全体で指導の在り方を協議し、早急に改善していく必要がある。

#### ④生活指導

- ・学校が行っている生活指導の適切さについて、生徒は昨年度から肯定的な回答がやや上昇している。保護者も肯定的な回答が増加しており、年々、学校の指導方針に信頼が寄せられてきていると判断できる。教員も、8割の肯定的な回答があり安定感が見られる。ただし、見逃してはならないのは教員の2割の否定的な回答であり、学校としての適切な生活指導の在り方について統一した方向性を再確認すべき時期に来ていることも現実として捉えなくてはならない。

#### ⑤学校行事

- ・学校行事については、生徒、保護者、教員ともに高いレベルで肯定的な回答が見られる。バリエーション豊かな学校行事を通して、人間的な成長やコミュニケーション能力を高めていこうとする本校の長年の積み重ねが、充実度として顕在化してきている証であることに相違ない。

#### ⑥地域との連携

- ・ボランティア活動や府中けやきの森学園との交流活動等について、生徒、保護者、教員ともに高いレベルで肯定的な回答が見られる。特に、教員は9割超の認知を示しており、生徒会執行部を中心としたボランティア活動に一般生徒も巻き込み活動を展開していることを高く評価している。

#### ⑦部活動

- ・部活動は、生徒と教員は高いレベルで肯定的に捉えている。特に、教員は、非常に高い数値を示し、意欲的に部活動を指導していると回答しており、下支えがあってこそその生徒の回答と受け取られる。

#### ⑧進路指導

- ・教員は、進路に関する情報の提供や進路指導を100%実施していると回答している。その傾向を受け、生徒の約9割が肯定的な評価を寄せている。保護者の回答も、年々肯定的な回答が増加傾向にある。

#### ⑨進学指導

- ・生徒も教員も、補習や夏期講習を通して進学指導が実施されていると高い肯定的な回答をしている。この数値が、本校の近年の進路実績や進学実績の向上に直結していることは疑う余地もない。

#### ⑩校内美化

- ・ゴミの分別や持ち帰り、教室の清掃や校内の環境美化については、生徒は9割余りが肯定的な回答をしている。教員は、昨年からの肯定的な回答が1割減少している。新しい校舎の快適な環境を維持していく上からも、教員は生徒にさらなる環境保全の意識の向上について、具体的な指導を展開していくことが求められている。

#### ⑪施設の整備

- ・教室、特別教室、体育施設等が学習や生活がしやすいように整備されているかについては、生徒、教員ともに非常に高い肯定的な回答をしている。保護者は「わからない」の回答が多いものの、授業公開や文化祭などを通して、本校の整備された環境について関心が高まっていくよう工夫していく必要がある。

#### ⑫保健・安全の指導

- ・保健だよりやセーフティ教室等を通じた健康や安全に関わる指導は、定期的な機関誌の発行や学期末の有効活用により、生徒、保護者、教員ともに非常に高い肯定的な回答を得ている。

#### ⑬生命尊重の指導

- ・学校が総力を挙げ、教員が、生命の重さや人と人との関わりの大切さについて適切に指導していることにより、生徒も9割以上の肯定的な回答を寄せている。このことは、青年期を生きる生徒にとって、命の大切さは何物にも代えがたい事実であることを直視することにより、軽率な行動を厳に慎む姿勢の涵養につながっていると判断できる。

#### ⑭悩みへの相談

- ・生徒が抱える様々な悩みへの対応は、二者面談の実施やスクールカウンセラーの全局面接などにより、生徒も教員も肯定的な意見が昨年を顕著に上回った。ただし、保護者の5割余りが不明もしくは否定的な回答を寄せていることから、本校に入学後の早期且つ3年間を見越した定期的な3者面談の実施や、スクールカウンセラーの保護者面接などをさらに充実させ、実践していくことが求められている。

#### ⑮体罰防止

- ・体罰防止についての積極的な取組については、教員全員が肯定的であるものの、生徒の1割余りが否定的な回答をしている。この項目に関しては、生徒も保護者も教員も、100%の肯定的な回答が求められている。改善すべき点については、早急に対処していかなくてはならない。

⑩ホームページの充実

・ホームページにおける本校の情報発信やPRについては、生徒と保護者は昨年同様、高い肯定的な回答であった。特に、教員の割合が増加した点が顕著である。

⑪ライフ・ワーク・バランス（働き方改革）

・部活動を外部指導員に依頼するなど、時代の流れに即した教員の働き方の在り方について、昨年引き続き生徒の9割が肯定的な回答を寄せている。保護者の回答は、昨年から後退しているが、本校の教員の献身的な働き方について再考を促しているものと考えられる。教員は、学校での働き方の改善へのアプローチにより、昨年より肯定的な回答が増加している。

⑫入学満足度

・生徒は、昨年同様、8割余りの肯定的な回答を得ている。保護者は、昨年より明らかに肯定的な回答が増加している。教員は、昨年同様、9割の肯定的な回答を得ている。課題としては、生徒、保護者、教員の3者の否定的回答の原因がどこにあるのかを問うことである。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校評価アンケートや、保護者からの意見を基に、学校が抱える課題に対して意見・助言をいただき、今後の教育活動に反映させることができた。
- ・授業見学を実施し、多数の意見をいただいたことにより、教員の授業改善に向けた意識改善を図ることができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学校生活や進路指導など、今後も協議会での意見を参考にしながら、学校運営の改善に努める。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。
- ・校務分掌の活性化を図り、学校全体で組織的な教育活動を一層推進する。

(2) 学習指導

- ・アクティブ・ラーニングを活用するなど、生徒に考えさせる授業を推進する。
- ・学力向上を図る授業を実践するため、教科会を充実させるとともに、教員一人一人が分かりやすい授業を実践するための指導方法を改善する。

(3) 生活指導

- ・生活指導部を中心に規範意識の醸成に努める。
- ・本校の生活指導方針を生徒や保護者に明確に示し、落ち着いた学習環境作りに取り組む。

(4) 進路指導

- ・進路指導部が中心となり、大学進学を中心に1年次から3年間を見据えた計画的な進学指導の充実を図る。特に、進路情報の的確な提供ときめの細かい進路指導を実践する。
- ・保護者向け進路ガイダンスの機会を増やし、情報発信の頻度を高める。

(5) 健康・安全

- ・生活指導部や保健部、各ホームルーム担任を中心として、校内環境整備、清掃活動の徹底、校内美化の徹底を図る。

(6) 特別活動

- ・部活動のより活動しやすい環境作りと、生徒実行委員会を中心とした行事を推進する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
5	0	2	0	0	0	1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

職員会議 0回 企画調整会議 0回